

ゴルフ文化の定着に向けたプロセス報告

ースポーツ庁委託事業を通してー

Report on the process of establishing a golf culture :

Through a project commissioned by the Japan Sports Agency

上村和美*

Kazumi UEMURA

抄録

関西国際大学三木キャンパスでは、2020 年度にスポーツ庁の「大学スポーツ資源の活用による地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業」に採択されたことを契機に、スポーツ振興・地域活性化推進センターを設置し、事業を推進してきた。事業の主軸としてきたゴルフは、三木市においては金物、山田錦と並ぶ産業である。本稿では、様々な取り組みの実例を紹介しながら、ゴルフ文化が三木キャンパスに定着していくプロセスを述べたものである。

I はじめに

関西国際大学（以下、本学）では、2020 年度にスポーツ庁の「令和 2 年度大学スポーツ資源の活用による地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業」（以下、スポーツ庁事業と略す）に採択された。この事業は、本学にスポーツ振興・地域活性化センターを設置、新たにスポーツアドミニストレーターを配置し、それらが中心となり、学内外の関連組織・団体と連携・協力し、本学や地域が持つ様々なスポーツ資源を活用しながら、学生スポーツの振興を図るとともに、SDGs とも連動させ、スポーツを通じた地域振興、地域防災力向上等の地域活性化施策を推進するというものである。事業採択後の 2020 年 9 月 1 日には、三木キャンパスに「スポーツ振興・地域活性化推進センター」を設置した。センターの学内における実施体制は、経営学部を中心に、強化クラブとの連携などは学生課、三木市や企業など学外との連携は社会連携課がサポートするというように複数組織で成り立っているものである。さらに、必要に応じて、保健医療学部やキャリアサポート室とも連携するなど、1 部局に集中せず、複数の組織と有機的に連携しているところが特徴的である。

本稿は、スポーツ庁事業を通して、特に三木市の三大産業の一つに挙げられるゴルフを取り上げ、ゴルフ文化を三木キャンパス内に定着させるプロセスをまとめたものである。

II スポーツ庁事業におけるゴルフ関連の活動

現在、委託事業は 2 年目を迎えているが、大まかに 1 年目は体制づくり、2 年目はより具体的な

* 関西国際大学経営学部 地域総合研究所学内研究員

活動を行うというように変化をしている（図1）。

1年目は、まず活動の中心となるスポーツ振興・地域活性化推進センターを設置した。そのセンター長を経営学部長が兼任することで、三木キャンパス内での活動拠点を経営学部が担い、事業の成果を一過性のものではなく、定着させることを目指した。しかし、新型コロナウイルスの影響があり、活動に制限も多く、必ずしも予定どおりには運ばなかった。

2年目はそれも踏まえてのスケジュールとなった。地域のニーズを汲み取りながら、本学ができること、本学の学生の学びに役立つことを構築していった。三木市のニーズは、ゴルフ産業の振興であるので、そこにシフトした活動が実施できるような事業内容を組み込んでいった。三木キャンパスは、硬式野球部、サッカー部、テニス部のスポーツ系の強化クラブを擁しており、キャンパス内にサッカーコートやテニスコート、青山7丁目には野球部のグラウンドと室内練習場がある。このような環境は、三木・尼崎・神戸山手の3キャンパスの中では、最もスポーツの色合いが濃いキャンパスといえることができる。

一方、「ゴルフのまち」と呼ばれる三木市にあるにもかかわらず、スポーツ庁事業のスタート時には、三木キャンパス内に「ゴルフ」を感じる要素はほとんどなかった。たとえば、スポーツとしてのゴルフを定着させるために、強化クラブ指定でゴルフ部を創設するのは容易なことではないため、まずは「ゴルフ文化」を広めていくことを主軸とした。強化クラブとして一部の学生のみがゴルフに関わるよりも、「ゴルフ文化」ととらえるほうが、より多くの学生や教職員に浸透させることが可能となるのである。

この2年間のスポーツ庁事業の活動うち、ゴルフに関する活動をまとめたものが表1である。

表1 スポーツ庁事業のうちゴルフに関連した活動

2020年9月1日	三木キャンパスに「スポーツ振興・地域活性化推進センター」設置
2021年11月	三木キャンパスメディアライブラリー（図書館）内にゴルフ関連図書のコーナー設置
2021年2月	「生涯スポーツⅠ（ゴルフ実技）開講
2021年6月	ゴルフサークル結成
2021年5月～12月	オープンキャンパスにて三木キャンパス経営学部ブースでスナッグゴルフとパターゴルフの紹介
2021年8月	経営学部においてゴルフ場でのインターンシップ実施
2021年10月	吉川高校訪問時にスナッグゴルフ体験プログラムを提供
2021年11月2日	経営学部「プロジェクトマネジメント演習Ⅲ」で三木ゴルフ倶楽部を訪問
2021年11月20日	インターンシップ受講者がスナッグゴルフ全国大会補助スタッフとして活躍
2021年12月17日～ 2022年2月21日	広野ゴルフ場前駅イルミネーション企画

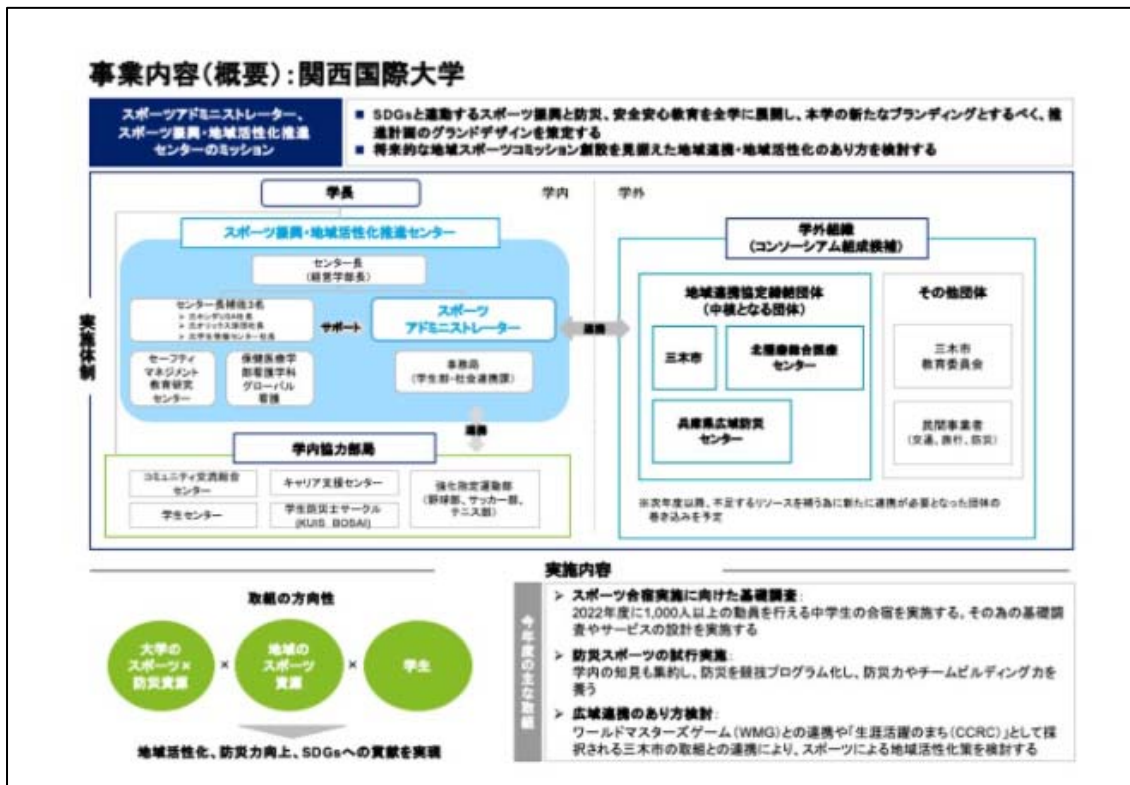


図1 事業のポンチ絵 上: 令和2年度 下: 令和3年度

Ⅲ 三木キャンパスにおけるゴルフ文化定着の軌跡

3.1. 関西女学院短期大学から関西国際大学開学

現在、本学は2020年4月に法人合併したことにより、三木、尼崎、山手の3キャンパス体制となっている。大学の歩みは、関西国際大学の前身である関西女学院短期大学が昭和62（1987）年に三木キャンパスに開学したことから始まり、1998年4月には関西国際大学が開学、それに伴い、関西女学院短期大学の校名は関西国際大学短期大学部に変更された。開学時の関西国際大学は、経営学部経営学科の1学部1学科でスタートした。

実は、関西女学院短期大学時代には、キャンパス内にゴルフ練習場が存在していた。そのことは、本学の『二十周年記念誌 カリヨンの風』（以下、『カリヨンの風』と略す）に掲載されている航空写真を見ればわかる。図2は1998年と2004年の変化がわかる写真であるが、現在のサッカーグラウンドの奥に位置している。図3の写真はゴルフ練習場を使った当時の活動の様子である。『カリヨンの風』の年表では、2004年10月に「グラウンドを人工芝に改装、サッカーの公式戦にも対応」の記述があり、おそらくサッカー部の活動開始を契機として工事されたものと思われる。その後、現在に至るまで、キャンパス内ではスポーツとしてのゴルフだけでなく、ゴルフ文化の要素までもが身を潜めることとなった。



2004年



1998年

図2 上空から見た三木キャンパス



図3 当時のゴルフ練習場での活動の様子

3.2. ゴルフのまち推進課との連携

2022年現在、三木市内には25のゴルフ場があり、その数は西日本一を誇る。表2に示すのが、三木市内のゴルフ場の一覧である。

表2 三木市内ゴルフ場一覧（50音順）

1	アークよかわゴルフ倶楽部	11	太平洋クラブ 六甲コース	21	三木よかわカントリークラブ
2	オリエンタルゴルフ倶楽部	12	チェリーヒルズゴルフクラブ	22	美奈木ゴルフ倶楽部
3	オリムピックゴルフ倶楽部	13	花屋敷ゴルフ倶楽部ひろのコース	23	吉川インターゴルフ倶楽部
4	関西クラシックゴルフ倶楽部	14	花屋敷ゴルフ倶楽部 よかわコース	24	吉川カントリー倶楽部
5	関西ゴルフ倶楽部	15	東広野ゴルフ倶楽部	25	ライオンズカントリー倶楽部
6	キングスロードゴルフクラブ	16	廣野ゴルフ倶楽部		
7	三甲ゴルフ倶楽部 ジャパンコース	17	フォレスト三木ゴルフ倶楽部		
8	センチュリー三木ゴルフ倶楽部	18	マスターズゴルフ倶楽部		
9	センチュリー吉川ゴルフ倶楽部	19	三木ゴルフ倶楽部		
10	太平洋クラブ 有馬コース	20	三木セブンハンドレッド倶楽部		

三木市が「ゴルフ場が多いまち」であることは間違いない。しかし、「ゴルフ場が多いまち」だけでは三木市の躍進には繋がらない。そこで、2020年に『ゴルフのまち』としてのブランド化を図り、ゴルフ産業を振興させることを目的として、三木市にゴルフのまち推進課が誕生した。ゴルフに特化した業務を行う組織は全国的にも稀有である。三木市では、金物、山田錦、ゴルフを三大産業に掲げており、ゴルフをスポーツ競技ではなく、産業として捉えていることがわかる。

三木市ホームページによると、ゴルフのまち推進課の主な業務内容は、以下となっている。

営業係

- ・ゴルフのまち三木のPRに関すること

事業係

- ・ゴルフの振興に関すること
- ・ジュニアゴルファーの育成に関すること
- ・ゴルフ協会に関すること

このうち、大学として直接的な連携が可能なものは、ゴルフのまち三木のPR、ゴルフの振興の2点が挙げられるだろう。

また、ゴルフのまち推進課の誕生は、本学がスポーツ庁事業に採択された時期とも合致しており、そのことがキャンパス内でゴルフ文化の定着を推進するための大きな機動力となったことは言うまでもない。

三木キャンパス内でゴルフ文化を定着させる手始めとして行ったのは、メディアライブラリー(図書館)にゴルフ関連書籍のコーナーを作ることであった。最初は関連本の冊数が少なかったこともあり、ゴルフのまち推進課より『オーイ！ とんぼ』の単行本を寄贈していただいた。『オーイ！ とんぼ』とは、「週刊ゴルフダイジェスト」2014年8月から連載されているゴルフ漫画である。コーナー設置後も、ゴルフ関連書籍を購入、展示する形で充実を図っている(図4)。



図4 ゴルフ関連書籍のコーナーとゴルフのまち推進課からの寄贈本

3.3. 「生涯スポーツ」の開講

2020年度冬学期には、2月5日（金）～10日（水）には「生涯スポーツⅠ（ゴルフ実技）」を開講した。前年10月より、三木市ゴルフのまち推進課様と準備を進めてきたもので、座学、体幹トレーニング、ゴルフ実技という充実した内容で、いずれも豪華な講師陣によるプログラムであった。履修登録者数は13名であった。

初日の2/5（金）には、ゴルフ界のレジェンド・川田太三先生に『ゴルフの魅力発見』というタイトルでご講義いただいた（図5）。この講義は、YouTube 限定配信の形式で公開講座として2/15～公開も行った。

2/8（月）～2/10（水）には、場所を三木ゴルフ倶楽部（三木市細川町垂穂字槇山 894-827）に移し、実技の授業を行った。まずは、ゴルフの基本とも言うべき体幹トレーニングから始まった（図6）。4スタンス理論を提唱しておられ、プロ野球のロッテの選手や多くのオリンピック選手の指導される廣戸聡一先生にご指導いただいた。特に、保健医療学部看護学科の受講生は「骨理学」の内容に興味深くとらえていた。

2/8 午後からは、日本人が世界ツアーに挑むようになった先駆けである鈴木規夫プロによる実技指導である（図7）。普段はプロ選手の育成に携わっておられるのだが、今回は全くの初心者に対して、やさしく、わかりやすく指導していただいた。その結果、1日目の終わりには、クラブを初めて握る受講生たちのほぼ全員がボールに当てることができるまでに上達していた。



図5 川田太三氏による講演の様子



図6 体幹トレーニングの様子

そして、この「生涯スポーツ」の開講は、ゴルフ雑誌などのメディアから注目されるという、思わぬ副産物もあった。



図7 ゴルフ場での活動の様子

まず『ゴルフダイジェスト』(2月16日号)では、「ゴルフのまち三木市が今度は大学で豪華講師の講座開催」というタイトルで、講義内容について詳述された(図8)。

さらに、『ゴルフ場セミナー』3月号では1ページにわたり、「大学生が市のゴルフ活性化策を提案」とのタイトルで記事が掲載された。『ゴルフ場セミナー』は全国のゴルフ場に必ず1冊は配置されるという威厳ある雑誌である。電話インタビューによる取材であったが、講義内容も詳しく紹介され、特に最終課題の提案型レポートについて興味を示された(図9)。

確かに、この「生涯スポーツ」は通常の授業よりもはるかに豪華な内容で展開しているものであるが、今後はそれをいかに継続し、定着させていくのが課題である。



図8 『ゴルフダイジェスト』表紙と記事



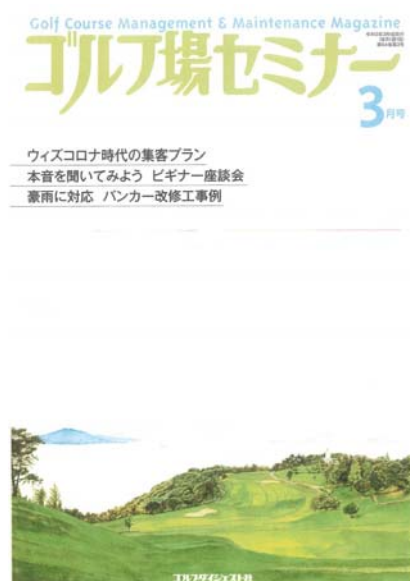


図9 『ゴルフ場セミナー』表紙と記事



3.4. オープンキャンパスでのブース設置

三木キャンパスのオープンキャンパス（2021年5月23日、6月13日、7月4日・18日、8月1・28・29日、9月26日、12月12日の合計9回、いずれも日曜日）では、経営学部のブースとして防災・危機マネジメント専攻と地域マネジメント専攻の2つを設置した。特に、地域マネジメント専攻ブースではスナッグゴルフ体験とパターゴルフ体験ができるようにした（図10）。来場者からの「なぜ、ここでゴルフ？」という疑問に答えるため、パネルも用意し、学生スタッフが来場者に説明するようにした。これにより、来場者へのアピールはもちろんのこと、学生スタッフである在学生自身にとっても、ゴルフ文化を再認識できるよい機会となった。

さらに、オープンキャンパスという形態ではないが、2021年10月28日（木）に地元の吉川高校がキャンパス見学で来学した際には、経営学部の防災・危機マネジメント専攻と地域マネジメント専攻を理解してもらえるように、オープンキャンパスと同様にスナッグゴルフ体験のメニューを設定した（図11）。ここには、吉川高校出身の本学経営学部生と「マネジメント専門演習」（経営学部3年生のゼミ科目）の学生が運営スタッフとして参加した。



図 10 オープンキャンパスでのスナッグゴルフ，パターゴルフ体験の様子



図 11 吉川高校生の活動の様子

3.5. 経営学部科目での展開

(1) 「インターンシップ」

一般的に、インターンシップは就職活動の一環として3年生で実施するケースが多いが、経営学部では1年冬学期の「業界研究」を経て、2年生夏学期に「インターンシップ」を履修するモデルとなっている。いずれも必修科目である。2021年夏学期からは、受入可能な市内ゴルフ場でインターンシップを行うこととなった。その事前学修として、座学によるゴルフの歴史やゴルフ場でのマナーの基本について学ぶことはもちろんのこと、スナッグゴルフ体験も行い、お客様からゴルフバ

ッグをお預かりする場面をロール・プレイング（役割演技）で予め疑似体験もした（図 12）。



図 12 インターンシップ事前学修の様子

しかし、残念ながら、緊急事態宣言の発出と重なり、ゴルフ場での実習は冬学期に延期せざるを得ない状況となった。そこで、一部代替活動として、2021 年 11 月 20 日に開催されたスナッグゴルフ全国大会のスタッフとして参加させてもらうことになった。受講者たちは、カートの操作や点数入力のための端末操作を学び、大会運営スタッフの指示を受けながら、臨機応変に対応するという貴重な経験ができた（図 13）。

(2)「プロジェクトマネジメント演習」

三木キャンパスの「プロジェクトマネジメント演習」では、三木市の三大産業の一つである「ゴルフ」に着目し、学生の視点からゴルフ産業の活性化や、ゴルフを活かした地域活性化について考えていくという取り組みを行った。春学期には、ゴルフ場の支配人からお話をしていただく機会もあり、これまでゴルフと縁がなかった学生たちも徐々に興味を示すようになってきていた。



図 13 スナッグゴルフ全国大会の活動の様子

秋学期には、グループで「若者にゴルフを広めるには」「女性ゴルファーを増やすには」「三木市民にゴルフを広めるには」「三木市以外から集客する方法」について、現状・課題・対応策を検討し、プランをまとめる事前学修も行った上で、ゴルフ場見学のプログラムを実施した（図 14）。



図 14 三木ゴルフ倶楽部見学の様子

3.6. 広野ゴルフ場前駅デコレーション計画

前出の「生涯スポーツⅠ（ゴルフ実技）」では、最終課題にレポートを課していた。以下の3つのテーマから1つを選択し、自身のプランをまとめ、提案するというものであった。

1. 三木市民にゴルフを広める方策
2. 三木市以外からのゴルフ場利用者を増やす方策
3. 女性/若年層ゴルファーを増やす方策

この中で「三木市民にゴルフを広める具体策」を選択したレポートにおける提案の中には、三木市在住の学生からのものがあった。その内容は、次のとおりである。

「授業で学ぶまでは、廣野ゴルフ倶楽部が世界有数であることを知りませんでした。三木市民が再認識すれば、ゴルフ文化を根付かせるきっかけになるのでは」

この提案をきっかけに、三木市民が廣野ゴルフ倶楽部を再認識するプロジェクトがスタートした。そして、この学生提案をもとに、神戸電鉄の活性化をも含んだ神戸電鉄栗生線の広野ゴルフ場前駅をイルミネーションで飾るという具体的なプランに発展した。そして、三木市交通政策課を通じて神戸電鉄へ提案し、実現へと至った。実施期間はイルミネーションが映えるクリスマスからバレンタインデーまで（2021年12月17日～2022年2月21日）に決定し、現地調査を経て、施工が完了した（図15）。

このプロジェクトは、神戸電鉄・ゴルフ場・三木市ゴルフのまち推進課、そして関西国際大学と、いわゆる産官学連携の協力の上に成立したものである。



図15 現地調査の様子（左）と施工の様子（右）



図 16 広野ゴルフ場前駅 イルミネーション施工前（左）と施工後（右）

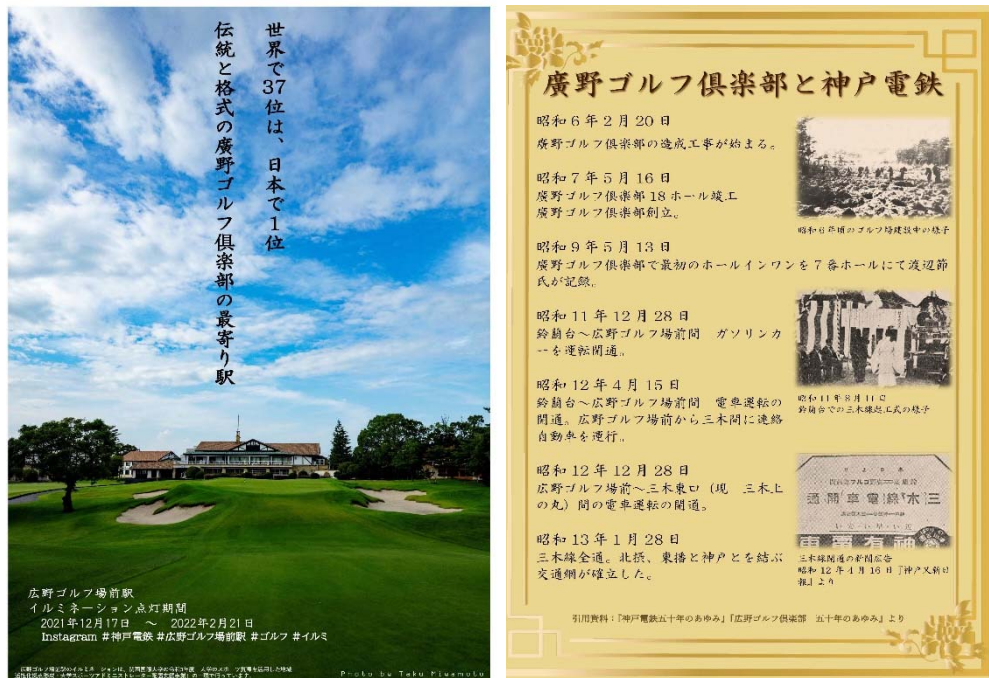


図 17 駅舎内に掲示したポスター

また、イルミネーション点灯初日に合わせて、駅舎内に廣野ゴルフ倶楽部と神戸電鉄の歴史等を説明したポスターを制作し、掲示した（図 17）。特に、「廣野ゴルフクラブと神戸電鉄」のポスターの内容からは、長い歴史を感じることができる。

さらに、見学者が記念撮影した写真を SNS にアップしやすいように、特性パネルも作成し、自由に使えるようにした（図 18）。Instagram 等の SNS にアップされることで、この活動をより広く認知してもらえるようになるので、そのための仕掛けを施したのである。



図 18 駅舎内配置した SNS 用パネル

IV 今後に向けて

活動を継続的に安定させるためには、学部カリキュラムと巧みに交差させることが必須である。単発の行事の繰り返しでは、活動を継続させることはできない。また、活動の成果をメディアに取り上げてもらうことで、学生は自分たちの活動に意味があると感じることができ、自信につながり、さらなる向上心にもつながる。

また、市内ゴルフ場での各種活動は、ゴルフのまち推進課との連携なしでは語ることができない。大学単独では実現しなかったことが数多くあった。今後も地域のニーズを汲み取りながら、地域に根差す大学としての活動を継続していくことが必要である。

【参考・引用文献】

- 1) 関西国際大学二十周年記念行事プロジェクト編『二十周年記念誌 カリヨンの風』 関西国際大学 2006 年
- 2) 関西女学院短期大学十周年記念誌編集委員会『開学十周年記念誌 カリヨンの響』 関西女学院短期大学 1998 年
- 3) 三木市ゴルフのまち推進課ホームページ [URL : https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/88/](https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/88/) (2022 年 1 月 31 日閲覧)

Abstract

Kansai University of International Studies has been selected for a project commissioned by the Sports Agency in 2020. At the same time, we have set up a center to promote sports and revitalize the community. For the past two years, our main activity has been to promote the culture of golf. Golf is a major industry in Miki City, Hyogo Prefecture, along with hardware and Yamadanishiki rice. For Miki, golf is not a sport, but rather an industry.

In this paper, describes the process of establishing a golf culture on the Miki campus by showing examples of various initiatives.